

粘着製品の トータルプランナー戦隊



業務用粘着シート製造販売、大協技研工業（座間市栗原、☎046・252・9311）は、次世代の経営を担う6人のチームを結成した。名付けて「粘着製品のトータルプランナー戦隊・ディーケージャー（DKJ）」。

今年10月には創業社長から2代目の大山純平常務にバトンタッチする同社。「創業者はスーパーマンのような存在ですが、私たちは戦隊ヒーローのような組織力で勝負します」と大山常務。世代交代に向けた準備を着々と進めている。

「ディーケージャー」結成

組織力で勝負だ

「DKJ」は大山常務（レッド）を筆頭に、営業本部長（ブルー）、調達・管理部長（イエロー）、技術・製造部門長（ピンク）、新規営業部の次長（グリーン）、品質保証部長（司令官役）で構成。すでにイラストも制作し、社内での認知も広まりつつあるという。

「戦隊ヒーローは全員が主役です。それぞれに役割があり、それぞれがサポートし合うことで強いチームを形成しています」と大山常務は力を込める。

また、組織力の向上には「個の成長」が不可欠だと考えており、今後は「君もレッドを目指そう！」を合言葉に、社内委員会やプロジェクトでも戦隊ヒーローに見立てた運営をしていく。

「どの社員も、仕事をしていると大変なこと、つらいこともあります。しかし、そんな仕事の中にも達成感とともに、安らぎを感じられる職場を作っていきたいです」と大山常務。社内を盛り上げていく取り組みを、今後も次々と打ち出していく考えだ。

大協技研工業

貼るだけで 飛来害虫対策

大協技研工業は、蛍光灯やLED（発光ダイオード）の近くに貼るだけで飛来害虫対策になる特殊粘着シート「影丸くん」を発売した。

飛来害虫対策では、UV（紫外線）ランプなどで寄せ付けて捕獲する装置が普及しているが、同社の「影丸くん」は粘着テープなので、電源を必要としない。

シートは厚さ75ミクロン。独自技術により、特殊粘着剤と高透明フィルムの二重構造を施した。通常の粘着テープは時間と

特殊粘着シート発売

にも固まってしまう、機能性が落ちてしまうものもあるが、同製品は粘着力が継続する。

出入り口や社員通用口、非常口付近など、工場のあらゆる場所に貼れるという。価格は100×300ミリ（固定用テープ付き）100枚入り（1ケース）で1万5000円。

飛来害虫対策が必要な食品工場などに提案するほか、インターネット通販「アマゾン」でも販売。初年度1億円の売り上げを見込む。

複雑形状も 一体成形

扶桑精工（相模原市緑区橋本台、☎042・774・1101）は1億5000万円を投じ、国内では数台しかないと言われる「3次元サクシオンブロー成形機」を相模原工場に導入した。これにより、金型生産から成形までを一貫して提供できるようになった。車載用のプラ部品試作など、自動車業界からの新たなニーズを見込む。



インブロー成形機は、国内ではまだ普及していないもので、複雑なプラスチック成形ができるのが特徴。例えば、長尺な3次元形状のプラスチック製ダクト部品の一体成形などが可能だ。

燃費改善のため軽量化が求められる自動車分野で、今後は車載部品でも軽量のプラスチック部品への置き換えが進むと予想。

3次元サクシオンブロー成形機導入

戦後間もない1947年に創業した企業。ガラス瓶用の金型やプラスチック成形用の金型生産を主力に、機械加工なども展開している。

同社のプラ成形用金型事業は、主に自動車業界向けに、タンクやスポイラー、ダクト類の部品用の金型を製造する。

今回導入した3次元サクシオンブ

扶桑精工

ガラス瓶金型はシェア5割

■ガラス瓶は海外で需要増

一方、ガラス瓶の金型事業は創業当初から取り組んでおり、国内シェア5割を占める。最近では、使い捨てのプラスチックのストローが深刻な環境汚染につながるとされる「ストロー問題」などを背景に、海外でガラス瓶の需要が高まっているという。前田順也社長は「リユース可能なガラス容器が再注目される時代が来てもおかしくない」と語っている。



スマート農業に商機

電子機器設計のMIYADEN（☎042・655・5080）は、業容拡大に向けて、相模原市緑区から東京・八王子市元横山に本社を移転。スマート農業分野に新規参入するための新会社も設立した。



プリント基板設計や実装などを手掛ける。「量産化までを同社が引き受ける」ことを条件に無料で設計をしているのが特徴だ。

CO2計測システムを販売

今回設立した新会社は、MIYADENが100%出資した。若松社長らが本業の傍ら、2年以上かけて研究してきた「スマート農業システム」の販売を担う。

電子機器設計のMIYADEN

同システムは、ビニールハウス向け。施設内の二酸化炭素（CO2）をセンサーによって計測・管理することで、効率的な農業を実現するという。

野菜の生育で“栄養素”となるCO2は、今までは木炭を燃やして発生させる方法が一般的だったが、発生量は厳密にコントロールされていなかったという。

それに対し、同システムでは、センサーで土壌中のCO2濃度を計測し、必要な分だけをガスボンベから供給していく。2年間で全国約30の農家や試験農場にテスト納入。イチゴやトマト、キュウリなどの作物で、収穫量や品質に成果が見られたという。そしてこの取り組みが農林水産省にスマート農業導入事例として紹介されると、問い合わせが1日10件以上寄せられた。

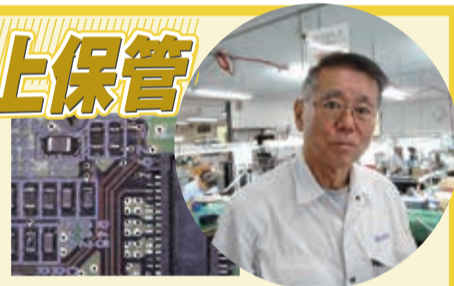
「年間2・5トンだったイチゴ収穫量が4トンになった例があります。品質も向上します」と若松健次社長。農業に新風を吹き込もうと奔走している。

本社移転機に新事業

実装記録 20年以上保管

プリント基板の実装などを手掛けるテクシード（横浜市泉区上飯田町、☎045・804・2457）は、お客さんの「困った」に完全対応する。

産業機器や測定器業界など向けに、基板改造、修復なども請け負っているが、同社では過去20年以上にわたる膨大な実装記録を保管。誰が・いつ・どのような条件で加工したかを全て記録しており、10年経過して不具合が発生した製品でも対応できる。実装記録を基に原因を調査、直せるものは直して再度組み込むという。



テクシード

「困った」に対応 プリント基板の

スマートフォンのセンサー技術の普及により、小型化・高密度化が進む大量生産型の基板とは一線を画し、試作品などの少量多品種対応に力を入れる。

「大量生産の場合は、不良が出ればすぐに廃棄ですが、当社に依頼が来る試作の場合は、改造を重ね、ラインに載せて実際に使うことが多いです」と高杉慎一社長。

取引先は常時30社、スポットを含めると年間約300社以上。設計に特化したファブレス企業からの依頼に対しては、試作品の基板から実装し、製品化や量産化にあたっての懸念点や改良点を報告。各種加工で機械化が進む中、機械と手動を併用した多種少量生産に手強いニーズがあり、商機もあるとしている。

社長さんが知っておきたい 冠婚葬祭のマナー

今回は、お付き合いのある会社から社葬での訃報通知をいただいたとき、会社の代表として企業が、どうお悔意を表すかを望ましながらお伝えいたしました。まずは、訃報通知や案内状にしっかりと目を通していただき、その中に「誠に勝手ながら香典・ご供物の儀は固くご辞退申し上げます」という一文が書かれています。これは、故人やご遺族との関係性にかかわらず、お香典・ご供物は受け取らないというお気持ちを表しています。ご迷惑になりますこと、またこの場合、ご

今回は、お付き合いのある会社から社葬での訃報通知をいただいたとき、会社の代表として企業が、どうお悔意を表すかを望ましながらお伝えいたしました。まずは、訃報通知や案内状にしっかりと目を通していただき、その中に「誠に勝手ながら香典・ご供物の儀は固くご辞退申し上げます」という一文が書かれています。これは、故人やご遺族との関係性にかかわらず、お香典・ご供物は受け取らないというお気持ちを表しています。ご迷惑になりますこと、またこの場合、ご



取引先からの訃報通知

供花を受け付ける」と意味することが多く、式場内にも供えるお花での弔意を希望されています。訃報通知に注文が記載されているので、ご供花をお送りすることでお悔意を先方にお伝えいたしました。このように訃報通知には、ご遺族の意向が示されていますので、先にもお伝えしましたが、隅々までお読みください。

社葬においても、葬儀に参列することが、一番弔意が伝わりますが、万が一、代表者の参列がかなわない場合は、役員や故人の役職と同等の方が代わりとしてご参列ください。その際、会社のご供花がきちんと贈られているかの確認も、お忘れなきようお願いいたします。

（清水誠葬具店副社長・清水ふじ代）